令和3年度　学習分析事業　改善計画　三原市立第二中学校

1．本年度の結果

①学力定着分析　NRT　偏差値平均　（全国を50とする）

		国語	数学	理科	社会	英語	全体
1年	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	51.5	51.9	51.1	50.2	50.6	50.9
2年	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	50.4	49.8	50.1	50.8	55.7	51.3
3年	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	49.4	49.2	47.2	50.2	48.9	48.9
全体	目標値 偏差値平均						
	結果 偏差値平均	50.5	50.3	49.5	50.4	51.8	50.4

②全国学力・学習状況調査　正答率平均　（第3学年対象）

教科	国語	数学
目標値 （対県比）		
結果 （対県比）	66	55

2．調査から明らかになった課題

【年度当初の学力について】（NRTをうけて） ●国語では，考えや感想をまとめ伝え合うこと（42.8%）【1学年】，文学的な文章の読み取り（42.7%）【2学年】・（33.8%）【3学年】に課題があった。 ●英語では，話すこと【1学年】，聞くこと【2学年】，特に書くこと【3学年】に課題があり，全国比を下回っていた。 ●社会では近代の日本（全国比94），資料活用の技能に課題があった。 ●数学では資料活用（全国比103）【1学年】，（全国比88）【2学年】，（全国比73）【3学年】に課題があった。 ●理科では，1年生において，化学領域にやや課題があった。（全国比93）。2・3年生は，どの分野に関しても知識の定着において課題があった。（全国比90程度）	【年度当初の学力について】（全国学力・学習状況調査をうけて） ●国語では「文章に表れているものの見方や考え方を捉え，自分の考えをもつこと」（14.8%）と，文脈の中における語句の意味を理解すること（37.4%）に課題があった。 ●数学では，数学の図形に関する領域（25.2%）に課題が見られ，図形の成り立ち，その証明などを苦手としている生徒が多いということが明らかになった。また，「データの傾向を的確に捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること」（8.7%）にも課題がある。

3．課題解決に向けた学校組織全体の重点目標・取組

重点目標　（何を，どの程度達成するか）	達成のための具体的取組　（どのようにして）	スケジュール	検証の指標・目標
【授業改善を通した学力・学習意欲の向上】 ○全教諭が生徒の学習状況の把握を丁寧に行うとともに「問いの設定」を意識した授業を実施できるようにする。 ○全学級の授業に，NRTで課題として挙げられた分野・項目の学力向上を意識した授業を行う。	①NRTの誤答分析による実態把握と改善計画の立案 ②学校経営会議において改善計画の共有 ③全体研修による目指す授業の共有 ④管理職による授業参観実施 ⑤全国学力・学習状況調査の誤答分析による実態把握 ⑥全教員によるNRTや全国学力調査の誤答分析による実態把握をし，課題のある問題について，どのように取り組むか，単元構成を計画し，実施する。 ⑦NRTのアシストシートを活用し，課題のある問題の類似問題の実施。	①6月 ②6月～7月 ③6月～7月 ④6月以降随時 ⑤6月～7月 ⑥9月中 ⑦9月～3月	・各学期末テスト平均値 （全学級60%以上） ・作成した類似問題や課題として挙げられた問題の正答率60%以上（ワークシートや定期テストなどによる評価）
【学級・学習集団づくり】 ○全学級において，一人一人の役割を明確にする掲示をする。 ○全学級の生徒にスクールカウンセラーや担任による面談を行い，生徒や生徒同士の人間関係について理解を深める。そこで得た情報をもとに教員がチームとして組織的に対応できるようにする。 ○学級や学年の実態に合わせ，ルールの確立や人間関係づくり（ピア学習など）を行う。	①Q-Uの分析による実態把握と改善計画の立案 ②教務・研究部の会議において各学級実態と改善計画の共有と実践 ③計画をもとに実践・分析・改善	①6～7月 ②6～7月 ③随時	・Q-U2回目の一次支援の数値向上　（全学級で1回目以上）